

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社理念である「コミュニケーション」と「生活リハビリ」に基づき、施設目標の「本人の出来る事を生かし発揮できる場を。」を掲げ、共有と実践に努めています。	理念に基づき「本人の出来ることを生かし発揮できる場」であることを意識し、刺し子をする、編み物をするなど利用者のやりたいこと出来ることを見つけ職員は共有し、生活の一部としてやっていくことを支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ渦のため日常的に交流は出来ておりませんが、今年度は地域の獅子舞を見たり、除草作業、河川清掃など周辺の環境美化に取り組んでおります。	地域の除草作業や河川清掃に参加したり、利用者が縫った雑巾を職員と利用者が小学校に届けるなど、常に地域と交流することを意識して取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域貢献までには至っていない状況です。社会福祉体験の依頼はありましたが、新型コロナウイルスの観点から難しい状況です。相談に来られた際には対応させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	家族代表・民生委員・地主さん・地域包括センターの職員さんに2ヶ月に一度、出席していただき、利用者さんの状況・サービス提供・健康状態・苦情、事故報告・収支報告をし、助言や要望等お聞きし、業務に生かさせていただいております。	会議は定期的開催しているが、会議が開けないときは書面でのやり取りになっています。利用者の状況や苦情、事故報告も文書を送り意見や質問を頂き、質問には回答するなどして業務に生かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に一度の運営推進会議に地域包括センターの職員さんに出席していただき、事業所の報告や相談や情報の交換もさせていただいております。	相談や報告など、担当者とは出向いたりメールなどで連絡を取り合い協力関係が築けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	社内研修実施計画にて、身体拘束について年4回の研修をおこなっております。身体拘束について正しい理解と、身体拘束をしないケアに取り組んでおります。玄関の施錠は防犯の面から、夜間のみおこなっております。	社内研修を行い拘束について理解し、会議の場で意見を出し合いながら職員で共有し、利用者につき添うこと見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者及び職員は、虐待がおこなわれない様に注意を払い、虐待防止に努めています。社内研修にて虐待防止に関する勉強会をおこない、理解を深めていくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援や成年後見制度について学ぶ機会を、持っていない状況です。仕組みなど理解していけるよう、研修会など参加していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書及び重要事項説明書の読み合わせをおこない、理解と納得をしていたううえで、契約をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にて家族代表・利用者さんへ出席していただき、意見・要望をいただいております。また、ご家族が来訪された時や、お電話等にて意見・要望をお聞きし対応させていただきます。	大事なことは逃さないように心掛け、「何かあれば伝えて」と声をかけ、家族等が意見や要望を表せるよう取り組んでいます。面会についても、顔を合わせる機会を作れるよう配慮されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、開設者・管理者・職員全員が参加する全体会議をおこなっており、意見を出し合ったり話し合う場を設けています。会議以外でも意見や要望・相談が出来る環境づくりに努めています。	管理者等は、意見を言いやすく話しやすい環境づくりに努めております。職員は、意見や要望などを出し、それらが運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めていると思っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	初任者研修や実務者研修、法人外の研修も希望があれば、勤務しながら受けられるように機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	新規に開設された施設に見学に行ったり、研修会など参加し、同業者の方との交流をはかっております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前にご本人と面談し、困り事や不安な事、要望などお聞きし、安心して過ごせていただける様に、信頼関係の構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前にご家族と面談し、困り事や不安な事、要望などお聞きし、入居に関して安心していただける様に、何でも話ができる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所する前にご本人・ご家族とお会いし、お話しをしていく中で何に困っており、何が必要なか状況を確認し、支援の見極めに努めています。場合によっては、社内、他施設のサービスも視野に入れております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の気持ちを尊重し、日常生活を一緒に過ごしながら、職員は日々コミュニケーションを図り、良い関係が築けるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には報告・相談を常日頃からさせていただき、協力していただいております。面会が難しい中、ご家族の絆が切れないよう、お電話でお話ししたり、面会緩和時は短時間の面会などしていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルスの状況を見ながら、感染防止対策を元に、規制緩和時には短時間の面会をしていただいております。また、日常の様子や行事の様子を3ヶ月に一度、文章と写真にてお伝えしております。	家族には家庭通信を送り、個々の利用者の日々の様子を文章と写真で伝えています。面会は出来なくても様子聞きに来てくれる家族や、地域で差し入れをくれる方もいて、関係が途切れない支援ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支えあえるような支援に努めている。	感情の起伏や作り話などで混乱が起こらない様に配慮しながら、孤立しないよう気が合う方と席を近くにしたりなど配慮しております。利用者さん同士で支えあえるような関係を、築けるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も関係性が終わる事はないので、相談や支援の要請があれば対応させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションの中でどのように暮らしたいのか、希望や意向の把握に努めています。困難な場合、家族から情報収集したり、興味を示す、意欲がある、表情が良いなどから本人の立場に立って汲み取り、職員間で話し合い検討しています。	日々のコミュニケーションの中で、利用者の話をよく聞いて思いを汲み取ろうと努めており、刺し子をしたい、編み物をしたいなどの利用者の思いをどのように支援するか、職員間で話し合い検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所決定時居宅のケアマネ、家族から情報収集し、生活歴や病歴、馴染みの暮らし方等、今までの様子の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝のバイタルチェック、排泄、食事の摂り方等信息共有し、朝のたまゆら体操を、輪になって顔を見ながら行い心身の状態把握に努めています。掃除、調理の下ごしらえ、手作業やレクを通して一人一人の理解力や出来る力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の要望や意向に添い、本人のできる力を見極めて日常生活がより意欲的に、活動的に、また良い表情で過ごすことができるような目標となるよう、家族や職員間で話し合い計画作成しています。課題整理総括表を用いて、必要なケアについて話し合い共有しています。	利用者の希望や意向に添い、利用者の出来る力を見極めて、利用者がより前向きに過ごせるように、家族や職員で話し合い介護計画を作成しています。日々気づきがあるので状況に合わせて話し合い共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事、水分量、排泄、バイタル他日々の暮らしの様子等記録し、職員がいつでも確認できるようにしており、職員の気づきや利用者の状態の変化等は、申し送りに記録し職員は確認しています。又状態の変化に応じて介護計画も見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ渦のため地域に対しての多機能化は取り組めていません。大腿骨骨折し、術後リハビリ病棟へ入院された利用者には、訪看のリハビリを利用し早期退院を試みたのですが、制度的な問題とのことで実現には至りませんでした。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議の場で民生委員、地主、地域包括センターの職員に参加して頂き、情報交換しております。地域の獅子舞や桜や花桃のお花見に出かけたり、図書館で本や紙芝居を借りてきて楽しんだり、遊歩道を散歩し四季を感じられるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今まで同様に継続的な医療が受けられる様、本人や家族の希望を大切にしています。受診時には利用者の生活の様子、また変化や心配事等情報提供し、適切な医療が受けられるようにしています。	入所前の主治医を継続するなど、利用者や家族の希望を大切にしています。受診の際は情報提供書で利用者の生活の様子や体調など伝え、主治医や家族と情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者を良く知っている看護職員に、日常の関わりの中での気づきや変化など、気軽に相談しながら健康管理や医療的支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、治療がスムーズに進むようケアのポイントについて情報提供を行い、入院の様子についてもこまめに情報を頂き、家族に経過報告や相談を行っています。病院関係者と共に早期から退院計画に向けて話を進めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所契約時から重度化に対応していないこと、共同生活が困難になってきた時、次の施設への申し込みと住み替えをお願いしています。その関係者には本人の状況や好み等、詳しく伝え暮らし方やケアの継続性等に配慮して頂けるよう働きかけています。	医療的なケアが必要になった、共同生活が困難になったなど重度化した場合には、よりサービスの提供ができる施設への移行をお願いしており、その際には関係者に、利用者の状況を詳しく伝えるなど利用者のための支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が社内研修において、応急手当の勉強会や夜勤時の緊急対応についてマニュアルに沿い、周知徹底を図っています。消防職員の協力の下救急手当や蘇生術の訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災対策マニュアルを作成しており、土砂災害訓練、防災訓練を消防職員参加の元、年2回実施しております。地域との協力体制が築けていませんが、社内他施設の協力体制はとれています。	利用者が参加し消防署職員と共に訓練を行っており、訓練後は反省や次の訓練につなげるなどを上げ、まとめ、職員で確認しています。地域の消防団にも働きかけをしており、地域との関係の構築に努めています。	BCPを作成し地域との関係を築く中で、より災害対策が進められることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩である事を忘れず、その方が今まで歩まれた人生など、1人ひとりの人格を尊重し丁寧に声掛けするように努めています。また、ポジティブな声掛け、共感や傾聴を心掛けています。	日常的にゆっくりとした関わりが出来ており、否定した言葉、行為を止める言葉がけをしないように努め、利用者の気持ちが前向きになれるような対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望など、日常の会話などから聞き出し、自己決定出来るように働きかけたり、日常の生活で「これがしたい」という事が無い利用者さんには、多方面の角度からアプローチし引き出せるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や体操の時間など一日の過ごし方にメリハリをつけていますが、疲れていれば居室で休んでいただいたり、好きな事、やりたい事など職員が提供したりなど、一人ひとりのペースに合わせて過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節や陽気にあった衣類を調節したり、その時期にあった洋服を着ているかアドバイスしたり、入浴後やトイレ後の衣類の身だしなみに配慮しております。毎朝の整容や髪をご自身で梳いてもらったり、定期的に美容師さんに来ていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日会や行事等、食べたい物などお聞きし、特別メニューにて提供させていただいております。季節の食材や畑で取れた野菜を取り入れています。食事の下ごしらえや準備、片付けなど個々の力に合わせ、職員と一緒にこなっております。	誕生日や行事食などでは希望に添ったメニューにしたり、畑でとれた野菜を取り入れて食事を楽しんでいます。利用者はモロヘイヤの葉をちぎる、野菜を炒める、テーブルを拭くなど出来ることを職員と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の食事量・水分量を記録、また普段と違う様子が見られた際は申し送りし、職員が周知出来るようにしております。栄養士が考えたメニューを元に、栄養バランスを考えた食事を提供しています。暑い日はこまめに水分提供したり、個々の食事に合わせ、形態や量など把握しお出ししております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っております。個々に合わせ声掛けや一部お手伝いをし、口腔内の清潔保持や、義歯の方には洗浄剤を使用し、汚れ防止に努めております。必要時には社内の歯科衛生士さんに見てもらい、歯科往診にて対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄時の記録を行い、排泄の間隔、状況把握に努め必要な方には定期的な声掛けや誘導を行っております。排泄の失敗が多くなっていますが、歩いてトイレでの排泄をさせていただいております。また、失禁予防の体操も取り入れています。	個々の排泄状況を把握し、必要な利用者には声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を基本としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表、記録にて職員は確認し把握しています。下剤は状況に合わせて服薬しておりますが、食物繊維の多い食品の食事提供や、大腸の働きが良くなるよう体操をおこなっています。便秘の方には食物繊維を使用したり、ヨーグルトを召し上がっていただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日は固定しておりますが、体調や気分に合わせて対応しております。個人に合わせた湯加減の考慮、入浴剤を入れたりし、気持ちよく入浴していただける様にしております。また、利用者さんによっては、2人介助させていただいております。	色がついた入浴剤を好む、肌が弱い利用者では専用のソープを使用するなど個々に対応して入浴を楽しんでいます。入浴を嫌がっていた利用者が髪を洗ったり、好きな入浴剤を使うなどの支援で入浴出来るようになっていきます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息・休憩は本人の体調や状況に合わせて自由に休んでいただいております。午睡を設けており、居室の明るさや室温に配慮しています。週一回のシーツ交換を行い清潔保持に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の情報は個々のファイルにいつでも確認できるようになっております。薬の変更時は申し送りや連絡事項にて、職員は確認・把握するように努めており、副作用の症状など留意し、変化があった時などは主治医に指示をいただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人の生活歴や身体機能の状況に合わせて、毎日の掃除や調理の下ごしらえ、作品作りなど、一人ひとりが出来る事を支援させていただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの影響もあり、希望に添っての外出・宿泊等は難しい状況にあります。天気の良い日や季節に合わせて外に出たり、ドライブに行き花を見たりし、外の空気に触れる機会を作っております。また、外出できる体力を維持できるよう体操等取り組んでいます。	近くのお宮に桜を見に行ったり、車で花桃を見に行ったり工夫しています。自然に囲まれた環境があるので、天気のよい日には外に出て体操をしたり、お茶を飲んだり、お弁当を作って食べたりと、外に出る機会を多く作っています。社内他施設のカフェに行くこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの方が、ご家族が管理しており、本人が使えるような支援は出来ておりません。必要時にご家族が買って来て下さり、施設で本人と相談し購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や知人から電話が来た際には、お話し出来るように支援しております。携帯を所持している方もおり、居室にて自由にお話ししております。手紙のやり取りはありませんが、身内の方から来た際には文面を一緒に考え、お返事を書くよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日、掃除をし清潔保持に努めています。温度・湿度を見ながら窓を開けたり、空調を使用し快適に過ごしていただいております。季節の花をかざったり、日付を分かりやすくしたりと工夫しております。	清潔保持に努めること、花など季節感があること、動線に物を置かないことなど心掛け、気持ちよく過ごせるよう努めています。日付を大きく表示し、利用者が分かりやすいよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご自宅がご近所さんだったり、気の合う方々と近くの席に座っていただき、お話しやゲームをしたりしています。ソファを設置しており、ゆっくり過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の馴染みのある寝具や家具、馴染みのある物を持ち込んでいただいております。入居されてからも、ご家族の手紙を飾ったり、ご自身で作られた刺し子を居室に飾ったりし、お部屋作りをしています。ご本人の身体状況に合わせ居室内の安全な動線を確保出来るように努めています。	家で使っていたベッドやタンス、自分で作った作品など持ち込んで、それぞれの居室づくりをしていました。職員は安全な動線の確保に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内はバリアフリーとなっており、廊下には手すりを設置し、安全に移動できるようになっております。居室には名札や居室名を馴染みのある名前にし、トイレには目線の高さにトイレ表示をし、分かりやすくしております。		